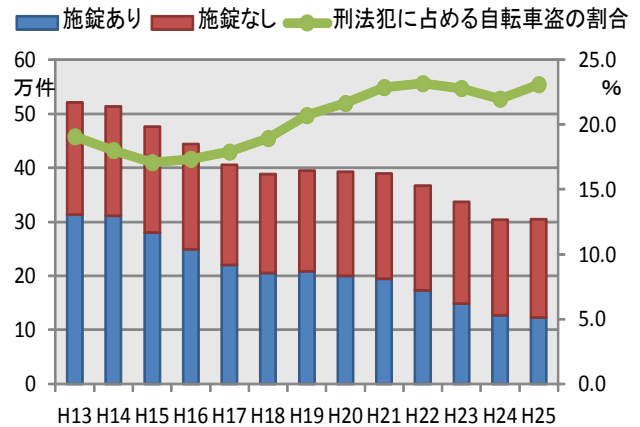


自転車盗の発生状況と対策について

1 自転車盗の発生状況

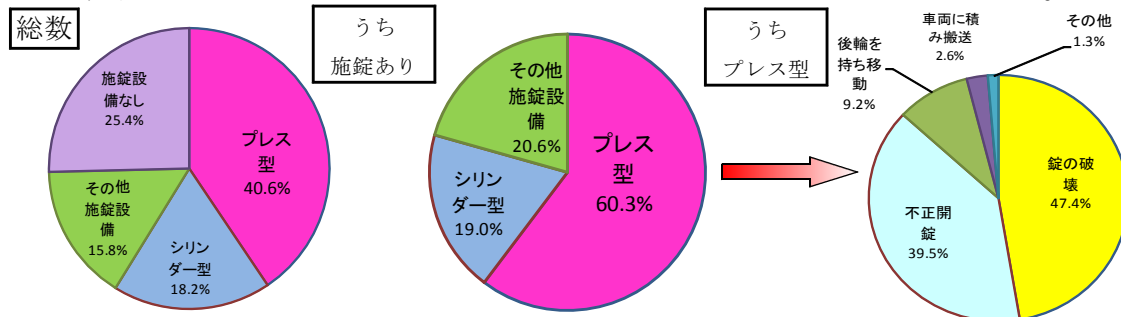
- 平成25年中の自転車盗の認知件数は30万5,003件で、最多であった平成13年の52万1,801件よりも約42%減少。
全刑法犯に占める自転車盗の割合は上昇傾向にあり、平成25年中は約23%。
- 「施錠あり」の自転車の被害は平成25年中12万3,639件で、自転車盗全体の約4割。



2 特別調査結果

平成25年11月11日から12月10日までの間、都道府県警察で検挙された自転車盗被疑者を対象に調査を実施。

- 被害自転車の施錠設備は、馬てい錠プレス型が約4割で、「施錠あり」に限ると約6割。
- 馬てい錠プレス型の窃取方法は、工具等で錠の破壊によるものが約5割、他の自転車の鍵やドライバー等を用いた不正開錠が約4割。



- 「施錠なし (無施錠)」の被害自転車のうち、約3割が錠設備を有さず。

3 対策の推進

- 平成21年のJIS規格改正により、馬てい錠プレス型からシリンダー型へ変更されたが、プレス型がなお被害の多数を占めている結果を踏まえ、自転車業界、ホームセンター等販売を行う業界の7団体に対し、不正開錠に強い錠の普及に向けた取組の強化を要請 (4月1日付)
- 都道府県警察による広報啓発等対策の強化

